

# 「重複語（畳語）している／した」について —形容詞性接尾辞「ばい」「らしい」との比較—

大塚 望

## 要旨

「重複語（畳語）している／した」の意味・用法、機能を明らかにすべく、類義の「ばい」と「らしい」との比較を行なった。意味的な共通点は「前接部の量、特徴や性質が強く現れていること」で、相違点は当該表現が「その数量、性質が極めて多い、大きいことを示す場合のみに使われる」という点であった。また、リアリティにも相違が見られ「ばい」が反事実、「らしい」が事実を示すのが本来で、当該表現はその両方を示すことができる。そして、当該表現は「前接要素に含まれる『属性的な性質』を引っ張りだして『形容詞化する』動詞形式の語尾（形容詞機能語尾）」であり、その生産性は高いと言える。

キーワード：畳語 する 形容詞性接尾辞 ばい らしい

## 1. はじめに

動詞「する」は様々な要素と共起し多様な意味、機能を持つ（大塚 2019）<sup>1)</sup>。その中に、同じ名詞が二度繰り返され、その後「している」または「した」が続く形式がある。そして、この表現と意味的に似ているのが形容詞性接尾辞の「ばい」「らしい」である。

とりわけ「ばい」は新用法の指摘を中心に近年多くの研究がなされているが、「名詞＋名詞（重複語・畳語<sup>2)</sup>）している／した」は管見のところあまり見られない。加えて、これらの比較を行なったものはほぼ皆無である。

そこで、本稿ではこれら三者の比較を行ないながら、畳語に「している／した」が後接する表現について、その意味・用法そして機能について論じるものとする。

## 2. 問題のありか

具体的に「子供」という名詞の例を辞典からあげてみたい。

こどもこども…する【子供子供】〔自サ変〕いかにも子どもっぽい様子をしている。用例：明暗〔1916〕〈夏目漱石〉「貴方まだ何処か子供子供した所があるのね」（日本国語大辞典）

以上のように「子供子供する」が「子供っぽい様子」であると説明されており、両者が類似した意味を示すことがわかる。もう一つ、「男」という名詞の例を辞典から見てみる。

らしい〔接尾〕名詞に付いて、…としての資質を十分に備えている、…と呼ぶにふさわしい、などの意を表す。「男らしい男」（大辞泉）

「男らしい」の類語：男っぽい（goo 辞書 類語辞書）

このように「男らしい」が「男っぽい」と類義であるとされている。加えて「男男した」という例がインターネット<sup>3)</sup>上には多く見られ、その意味は「男らしい」「男っぽい」と似ているものと解釈される。

(1) 今の日本女性は男がおもうほど、筋肉ムキムキの男男した男は好まないような…（発言小町（読売新聞のネット掲示板）2015.3.1）

以上、三者は意味・用法が類義の関係にあることがわかる。

「豊語している」は、上記に見た通り一方で明治期の小説、一方で現代のネットの書き込み、とその時代的、文体的特徴が両極端とも言える。また、「子供子供する」と辞典の見出しには終止形で記載されているが、事例には終止形の使用は見られず、すべて「している」「した」という形式に限定されている。そして、同じ名詞が二度繰り返されるという「豊語」の形態をとっている。

本稿では「豊語している／した」<sup>4)</sup>という表現について、「っぽい」「らしい」と比較しながら、その意味・用法、文体的特徴、文法的な機能、そして豊語の機能について考察することとする。なお、「っぽい」「らしい」の推量を意味する助動詞用法については、「豊語している」には見られないため考察から除外する。

## 3. 先行研究

「っぽい」と「らしい」を比較した研究はこれまでいくつかあるが、「豊語している」と比較したものは管見のところ見当たらない。また、「っぽい」についての研究が近年盛んで、ネットにおける新用法の広がりを指摘するものが多い（尾谷

2000、ケキゼ 2003、竹島 2010、小原 2010 など)。一方で「疊語している」は、ネット上でよく見られるとするもの（定延 2015、小野 2015）と、近代小説で最も検索例が多かったとするもの（徐 2016）とあり、その変遷や実態については未解明な部分が多い。また、「疊語」研究の中で当該表現を論の中心に据えて述べたものは小野（同）だけのようなのだ。

本稿は「ばい」「らしい」の研究と「疊語している」の架橋をなす研究であり、それと同時に形式動詞「する」の持つ文法的機能性を新たな角度で検証する研究と位置づけたい。

#### 4. 前接する要素

「する」は語彙的な意味が希薄であり、専ら文法的な役割を果たすような動詞であるため形式用言（山田 1908）、形式動詞（松下 1928）、補助用言（橋本 1935）、機能動詞（村木 1980）と呼ばれてきた。つまり、「疊語している」の意味は前接する疊語の意味に左右される。そのため、まず前接する要素を整理・分類したい。ただし詳細については5章で述べるため、ここでは数例をもって確認するのみにとどめる。また、実例が見られたものを共起可と考え、それぞれの許容度や定着度については9章において考察する。

##### 動詞の連用形

飽き飽きしている	飽きっばい	*飽きらしい
*湿湿している	湿っばい	*湿らしい
惚れ惚れしている	惚れっばい	*惚れらしい
*忘れ忘れしている	忘れっばい	*忘れらしい

##### 形容詞語幹

*安安している	安っばい	*安らしい
*荒荒している	荒っばい	*荒らしい
*憎憎している	*憎っばい	憎らしい
*可愛可愛している	*可愛っばい	可愛らしい

##### 形容動詞語幹

*哀れ哀れしている	哀れっばい	*哀れらしい
-----------	-------	--------

\*馬鹿馬鹿している      馬鹿っばい      馬鹿らしい  
 元気元気している<sup>5)</sup>      元気っばい      元気らしい

副詞

\*わざとわざとしている      わざとっばい      わざとらしい  
 \*今更今更している      今更っばい      \*今更らしい  
 \*やけにやけにしている      \*やけにっばい      \*やけにらしい

名詞

女女している      女っばい      女らしい  
 子供子供している      子供っばい      子供らしい  
 黒黒している<sup>6)</sup>      黒っばい      黒らしい  
 ピンクピンクしている      ピンクっばい      ピンクらしい

指示語（指示代名詞）

\*それぞれしている      それっばい      それらしい  
 \*あの人あの人している      あの人っばい      あの人らしい

以上のように、「畳語している」は名詞を主としながらも、動詞の連用形や形容動詞語幹の一部も見られる。三者の中で最も広い使用領域を持つのが「ばい」であり、「らしい」は名詞と一部の形容詞、形容動詞に限定されている。表1としてまとめる。

表1 前接要素の種類

	動詞連用形	形容詞語幹	形容動詞語幹	副詞	名詞	指示語
畳語している	△	×	△	×	○	×
～ばい	○	△	○	△	○	○
～らしい	×	△	△	△	○	○

5. 意味と用法—名詞と共起する場合

前接要素の種類を見るに、三者の類似は名詞と共起する場合であることがわかる。そこで名詞と共起する場合に絞り、その意味や用法の相違について考察する。

「ばい」と共起する名詞の種類からその意味と用法を分析した山下（1995）と竹島（2010）がある。山下（同）は、「ばい」が共起する名詞を「モノ名詞」と「そ

れ以外の名詞（コト名詞、ヒト名詞）」の二つに分け、前者が「そのものが必要以上に多く含まれ、過剰と感じられる状態である」、後者が「そのものの性質が外に濃厚に表出された状態である」という「話し手の判断」を表わすとした。竹島（同）は先行研究を元に「具象名詞（モノ名詞）」の場合は「物理的含有量が多いこと」、「半具象的な名詞、又は抽象名詞」つまり「人の肩書きや立場、身分など及び人の性質、性格を表わす名詞」、「地名、場所」「色彩用語」の場合は「属性・特徴などの含有量が多いこと」を意味するとしている。この他、名詞の種類から分類したものではないが、意味や用法の記述として物理的含有量や属性の多さ（尾谷 2000）、知覚的属性や内的属性、典型例が持つ性質・属性が基準値より多いこと（ケキゼ 2003）など、「ぼい」が「傾向・状態・要素が色濃く現れて（森田 1989）」いると考える結果が示されている。

一方、「らしい」は、森田（1977）では「そのものの特徴を十分に兼ね備えて、いかにもそれにふさわしい状態である様子」であるとされ、山下（同）もほぼ同様である。この他、田野村（1991）には「ある物であることが分かっている対象について、それがそのものの典型的な性質を示しているということを表現する」と述べられている。

「ぼい」と「らしい」はこのように名詞が意味する内容が、「十分に」「多量に」あることを意味するものであることがわかる。

それでは、名詞の種類ごとに「疊語している」の意味・用法を「ぼい」「らしい」と比較しながら考察していく。

## 5.1. モノを表わす名詞

(2) たまごたまごしてる W 玉子サンド だし巻き玉子にマヨネーズと合えたたまごがサンドされた、たまご好きのたまごサンド (中略) W でたまごが食べれるこのサンドイッチ。ボリュームは申し分ないし、ちょっとハマリそう。 (くちコミサイト・食べログ 2019.12) <sup>7)</sup>

(3) 「チョコチョコしてるのにしつこくない」めちゃうちゃなチョコづくしなのに全くしつこくなくて美味しすぎる…チョコレートコーティングは厚すぎず薄くもなく、パリッと割れて軽い食感。そのコーティングに混ぜこまれたココアクランチがめちゃうちゃザクザク (中略) だけど焼きチョコが混ざっていて香ばしさと食感、濃厚さがプラスされて美味しい。中央に生チョコも入っていて濃厚さが増し増し。(くちコミサイト・もぐナビ 2018.12.13)

(4) 【ハーゲンダッツ】CMの「いちごいちごしてる～」を見て、久々のス

トロベリー。(個人のブログ 2020.4.2)

これらの事例はいずれも具体的な物を表わす名詞であり、その量が多いことを意味している。しかも、その多さは「最大値、極限の多さ」を意味していることに特徴がある。例の点線部分が意味解釈の根拠となる部分であるが、(2)「たまごたまごしている」は、このサンドイッチがだし巻き卵とマヨネーズに和えた卵の二種類の卵料理がサンドされていること、卵のボリュームがあること(写真ではパンの厚みの3倍はあるかと思われる量の、卵の具が見て取れた)などから、卵が極端に大量に入った、卵がしっかり味わえるものであることを意味していると解釈できる。また、(3)「チョコチョコしている」もこのお菓子が焼きチョコ、生チョコ、ココアランチが入っていて、更にチョコレートがかかっており、チョコの量が非常に大量であることを指して表現していることがわかる。そして、(4)「いちごいちごしている」はアイスのTVコマーシャルで使われていたものだが、苺の味が非常に濃いこと、苺が最大限に詰まっていることを伝えるものと受け取れる。

一方、これらを「ぼい」で置き換えてみると以下ようになる。

- (2) a. #<sup>8)</sup> 卵**っぼい**Wサンドイッチ    b. \*卵らしいサンドイッチ  
(3) a. #チョコ**っぼい**のにしつこくない    b. #チョコ**らしい**のにしつこくない  
(4) a. #いちご**っぼい**～    b. #いちご**らしい**～

いずれも「ぼい」「らしい」に置き換えると、その量の程度性が極端に落ちることがわかる。

先行研究では、「ぼい」は「期待値よりも多く物質を含んでいる(尾谷2000)」「話者の暗黙の基準値よりも多く含む(ケキゼ2003)」「必要以上に多く含まれ、過剰と感じられる状態(山下1995)」とされている。例えば、「水**っぼい**カレー」は水の含有量が多いことを意味するがその程度は絶対的に多いのではなく、「期待値よりも」「基準値よりも」多いという程度に過ぎない。一方、「量語している」は話者の想定という前提を持たず、「絶対的に最大値であること」を示していることに特徴がある<sup>9)</sup>。そして、「らしい」は「そのものの特徴や性格を十分に備えている様子(山下同)」とあるように、量的な側面を述べることはできないと考えるべきである。

## 5.2. 色を表わす名詞

(5)「少女時代ユナ、セルフペイントに挑戦…ピンクピンクしてる」ピンクの作業用エプロンをかけたユナは、ピンク色に塗られたドアの前で明るく笑

っている。ユナの手にはピンクの塗料がついた刷毛が握られている。(芸能ニュースサイト 2020.8.23)

これはピンク色の占有率が極めて高いことを意味している。掲載されていた写真は、作業用エプロン、ドア、刷毛のすべてがピンク色で写真全体がピンク一色の感があった。これを「ぼい」「らしい」で言い換えることはできない。

(5) '少女時代ユナ、セルフペイントに挑戦…#ピンクっぼい／\*ピンクらしい

「ピンクっぼい」は、別の意味が生じ「色っぼい」の意味が感じられる。あるいは「ピンクがかった」という意味になりピンクの程度は弱まる。また、「らしい」はこの文脈では使えない。先行研究では、「ぼい」は色彩用語のような名詞と共に起する場合、「そのものの性質が外に濃厚に表出された状態（山下 1995）」「属性の含有量の多さ（尾谷 2000）」「知覚的属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含むこと（ケキゼ 2003）」を表わすとしているが、以上のように「多い」と言っても、程度が極めて大きいことは意味しないことがわかる。ケキゼ（同）もその多さは「最大値には至らない」と加えている。

そして、「ぼい」はその程度性が小から大へとその都度変わる。例えば「ピンクっぼい肌色」はピンクがかった（ピンク色が少し感じられる）肌色であり、「ピンクっぼいタオル」はほとんどピンクに近い色をしたタオルであるという解釈が可能である（逆も然り）。それゆえに、基準値や期待値という前提が考えられるわけである。ところが、「疊語している」の場合はその程度性の傾きがなく、常に最大の方の極値を示す。あるいは、その程度性を超えているという解釈も可能である。つまり、「ぼい」は含有量がいくら多くてもそのものと同等になることはないが、「疊語している」はそのもの以上に強いこと、あるいはそのものが複数、多量に存在することを示している。それは、次のような比較的許容されやすい語例を見るとさらにはっきりする<sup>10)</sup>。

(6) 日に焼けて黒々してはります。(個人のブログ 2020.8.14)

(7) やけに黒々してるけどヅラですか？髪の方が多すぎる。(Yahoo! 知恵袋 2020.1.25)

前者は、黒そのものとしての色合いがさらに濃く強く現れていることを意味していると解釈される。後者は「髪の方が多すぎる」とあるように、その黒さが異常なほど強いことを意味している。つまり、「黒っぼい」では黒ではないが黒に近い（ただし程度性がある）こと、「黒らしい黒」では黒の典型としての黒であって、黒そのものよりもさらに黒いことまでは意味しない。

以上のように、色と共起する場合も「畳語している」は極端に多いことを意味しており、その程度性に傾きのある「ぼい」や典型例を示す「らしい」とは異なることがわかる。

### 5.3. 属性を表わす名詞

属性を表わす名詞で「している」と共起するものには、辞書に記載されている「子供」のほか年齢を示す「ジジイ」「ババア」、性を示す「女」「女の子」「男」、「オネエ」などの実例が多く見られた。

(8) 「オネエオネエしている」もっとオネエオネエしてるほうが好みだしおもしろいと思うけど、ゲイで女装家のリアルはあんな感じですよ。 (テレビ番組の口コミ・TV ログ 2019.6)

(9) それと予想外(?)に良かったのは、弥左衛門役の文哉さん。(略) 変にクセ付けをすることなく、かつぎこちなくもなく、自然にジジイジジイしているというか……。干物感があった。(個人のブログ 2019.7.3)

(10) 「女女している」結構、女っぽいという意味の場合と、女であることを武器にしているという批判的なニュアンスで言うケースもある。(Yahoo! 知恵袋 2005.4.27)

(11) あんまり男男してるのは好きじゃない。昨日感じたのはプラスプラスでわさ。強引さが感じられるわけよ。共感性に欠けるというか。ぐいぐい引っ張れば良いわけでもないし。(略) そんな男男が嫌。(個人のブログ 2018.9.03)

いずれも名詞から導き出される特徴や性質が極端に強く現れているということを意味していると解釈される。ただ、このような属性を表わす名詞の場合は、派生する意味がかなり広いとも言える。それは(10)の点線にある通り、「女」という語が持つ意味の一端が強調的に現れている。また、(11)「男男して」の意味するところは点線部のような内容でありその意味はかなり広い。

これらの属性を表わす名詞の場合は、すべて「ぼい」に置き換えることができる。しかし、マイナスの意味がある場合には「らしい」に置き換えることはできない。例えば、女を武器にしているという意味を表わす「女らしい」や、強引さが強く共感に欠けるという意味の「男らしい」は不可である。ケキゼ(2003)は、「ぼい」のこのような例について「典型例が持つ性質・属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む」と説明している。また、「らしい」については「特徴や性格を十分に備えている様子(山下1995)」とする。これらとの相違は、やはりその



程度の強さであると言える。「基準値よりも多い」「十分に」という程度ではなく、そのものが「かなり強く現れている」ことを示す。そのために(10)「女女している」の例では「結構、女っぽいという意味」のように「結構」という程度を強める副詞を「女っぽい」に添えているのである。

岩崎(2013)は、「近年、次のような例が見られることには注意されたい」とした上で、「クリスマスっぽいワンピース」などの例をあげ、「『クリスマスに着ていくのにふさわしいワンピース』や『クリスマスを連想させる(略)ワンピース』など、個々に解釈が可能である。個人の印象を自由に述べられる語であると考えられる。」と指摘している。程度性に差が設定できる「っぽい」の方が解釈の幅が出そうだが、先述した通り「疊語している」は程度には幅がない(常に大きい)が、意味にはこの通り解釈の幅がある。一方、「らしい」はその広がりあまりなく、典型的な性質に限定されていると思われる。定延(2015)は「疊語している」は「『多分にイメージ的』『感覚モードの違いに敏感』『態度や感情を含んでいる』」と述べ、その広がりについて指摘している。

翻って言えば、「疊語している」は共起する名詞が属性を表わすというだけでなく、「名詞に含まれる『属性的な要素』を引っ張りだして形容詞化する」というのが本質であろう。そのため、例えば「女」という名詞は確かに性という特徴でまさに属性と呼ぶにふさわしいが、それだけでなく、「女」が持つ特徴、性質、働き、性格として認知されるものを極めて強い形で引き出し、形容詞的に用いることを可能にしている。あるいは、地名や場所の名詞<sup>11)</sup>、職業や身分を表わす名詞であっても、そこに見られる性質や特性を引き出して形容詞のような働きをもたせていると考えられるのである。それゆえに、許容度に差はあれ、かなりの名詞が「疊語している」の表現を作ろうと思えば作れ、そして使われるという事態を生んでいると考えられる。例えば「チェダーチェダーしている」は実例にあったが「モツァレラモツァレラしている」は検出できなかった。また、「タレタレしている」は実例にあっても「ソースソースしている」は見つけられなかった。濱田(2010)が、「主観的判断が上接要素を増やし、特徴さえ見出すことができれば上接要素になることが可能だ」とした「っぽい」とは、この造語力の要因において類似していると言える。意味の相違を表2としてまとめる。

表2 名詞と共起する場合の意味・用法の相違

表現形式	意味・用法
畳語している	その数量、性質が「極限の多さ」「極端に大量」であること（強い方の程度のみ示す）
～ばい	その数量、性質が基準値以上の含有量の多さであること（多さには小から大の程度性がある）
～らしい	その性質が典型としての十分さを持つこと

## 6. 事実性・リアリティの相違

さて、三者の相違を更に明らかにするために、「事実性・リアリティ」という観点から考察しておきたい。

辞典にある「子供子供する」の例は、「貴方まだ何処か子供子供した所があるのね（日本国語大辞典）」「十八になる、まだ子供子供した赤い頬の書生（同）」「子供子供したところのある学生（大辞泉）」で、「子供子供する」という特徴を持っている主体はいずれも子供ではない。一方で、「子供らしい子供」「\*子供らしい大人」のように「らしい」は、子供について述べ大人については言及できない<sup>12)</sup>。ところが、先行研究の多くが指摘するように「ばい」は、「子供っばい大人」「子供っばい子供」の両方が可能である。このように、事実そうであるものに対してその特徴が強くと述べる事実性のある用法と、事実そうではないものに対してある特徴が強くと述べる事実性のない用法とが見られる。岩崎（2013）ではこの点をリアリティと呼び、前者を「反事実」、後者を「事実」と呼び、時代変遷を分析した。また、竹島（2010）では、「YはXっばい」が「Y=X」か否かという観点をとっている。もう少し例を見てみる。

(12) 竹千代は物言いも少なく、無愛想でいかにも鈍重に見えたのに、国千代は子供子供してかわいく、ひとにもよくなついたので、はためには竹千代よりもずっと怜愍に見えた。（『人物日本の女性史』5巻 田中澄江 集英社 1977年）

(13) 「『攝待』の子方は子供子供しては無理な役、大体10歳以上の子供が務めるので心配しています」と九郎右衛門。（毎日新聞 2011.10.29）

どちらも主体は子供であり事実の用法であることがわかる。一方で、辞書の記載通り子供ではない主体に用いて「いかにも子供である」ことを表わす例は現在も見られる。「子供子供した」はこのように「子供っばい」と同様、子供に対しても（事実）、大人に対しても（反事実）用いられる<sup>13)</sup>。しかし、「ばい」においては事実が新しい用法なのに対して、当該表現の方はそういったことはない。

もう一例、「男男している」について確認する。

(14) タカラヅカの男役は「現実にはありえない女性にとっての理想の男性」だと言われます。衣装でそれをどのように表現するのですか。「あまり男々しないよう、スポーティーで男っぽい女の子、という感じでデザインしました。」(読売新聞 1992.08.23)

(15) 「男男しても、愛は自由」え、この男男した男2人でBLなの？と驚いた。(朝日新聞デジタル 2017.9.29)

「男男した男」とあるように事実を示している。もう一つは「男役の女性が『男々しない』ように」ということなので、反事実的である。一方「女女した女」「女の子の子した女の子」のような事実の例は見られたが、男性について述べる事例は見つけられなかった。しかし、意味の基本が「その特徴が極端に強いこと」を表わすのであれば、「男男した女」「女女した男」が成立しても不思議ではない。

一方、「っぽい」は「男っぽい女（反事実）」「男っぽい男（事実）」の両方があるが、事例の多くは反事実であり、以下のような事実の例は少なく、新用法であることが示唆される。

(16) お父さんが、昔のように男っぽいお父さんに戻るように、るみが元気にしてあげてね(『雪より白い鳥』立松和平、フレーベル館、1999年)

「らしい」は「男らしい男（事実）」はあるが「\*男らしい女（反事実）」はないとされている(田野村 1991)。それは筆者の内省とも合致するものだが、以下のように反事実の例がBCCWJの書籍のジャンルで現在も見られた。

(17) 笑い声も大きくワハハハと豪快。食事もせわしない。男らしい女性なんだというのが私の第一印象だった。(『これで完璧人材育成白書』酒寄ユリヤ、文芸社、2003年)

以上の結果を表3にまとめておく。◎は本来の用法、あるいは一般的かつ事例が多い、○は事例が多く見られるもの、△は事例があっても少ないもの、「新」は新用法を意味している。

表3 現代語における「事実性」

	事実 (Y = X)	反事実 (Y ≠ X)
疊語している	◎	◎
～っぽい	○新	◎
～らしい	◎	△

「疊語している」は事実、反事実どちらかが本来であるというニュアンスを持たない。それは、「っぽい」と「らしい」と比較するとき注目されるに過ぎず、

この点が「ばい」「らしい」との相違でもある。

## 7. 名詞が繰り返されることの意味

さて、ここまで名詞と共起する場合について「ばい」「らしい」と比較してきたが、「している」が後接するのは単なる名詞ではないことに注目しなければならない。「名詞＋名詞」の構造をとり、しかも同じ名詞が繰り返されるという大きな特徴がある。このように同じ要素が重ねて用いられる語のレベルを疊語と呼ぶが、当該表現に関する先行研究（徐 2016、小野 2015、定延 2015）は、疊語・複合語という観点に立って研究したものである。

まず、名詞の疊語は何を意味するのか。青海（2020）は疊語の先行研究を広く振り返り、「辞書などを参考にすると、名詞の疊語の意味は、『複数』が典型であると考えられる」「名詞に限っての意味は『複数』だけでなく、『多数』の要素が含まれる『多数性の複数』も示された」と述べる。つまり、当該表現は「多数性の複数」を指す場合と、一般の名詞疊語が持たず、形容詞などその他の疊語が持つ「強調」を指す場合があるということになる。そして、この強調には、「重複語基の中核的な属性に近似する属性（小野 2015）」を表す場合と、「重複語基によって想像される様々な関連する属性（小野同）」を表す場合があるとされるが、前者は「らしい」の持つ「典型」と関連し、後者は（『クリスマスっぽいワンピ』の例にも見られたように）性質の多さについて程度性の差を設定できる「ばい」と関連する。そして、当該表現には「極端な多さ」という名詞の疊語が典型的に持つ「多数」という意味を示す点があり、名詞疊語と形容詞疊語の意味的特徴を持つと考えられるのである<sup>14)</sup>。

ただし、「名詞＋名詞している」の「名詞＋名詞」が疊語であるかどうかには議論の余地が残されている。一つは、当該の表現が名詞の疊語が持たない強調という意味を持つこと、二つは疊語とは「同じ語を重ねて一語となったもの（日本語学研究事典）」であるのに、「疊語している」の前接部分は一語で用いられることがないこと（例、\*子供子供が走ってきた。）、三つは「意味の強調が生じる場合は、2語が複合されず、独立したままであるとみなされる（日本語学大辞典）」とする見方があること、これらの点から厳密には疊語の域を超えていると考えられよう。小野（2015）でも、これを統語レベルの反復と語レベルの重複の中間的なものと捉え「構文的重複語」としている。しかし、当該表現は疊語の研究領域で論じられる（青海 2020）ことを考え、本稿では疊語とした。

## 8. 話し言葉・俗語の性質

小野（2015）は Google 検索を用いて、徐（2016）は青空文庫、新潮文庫の100冊、BCCWJを用いて実例を検索した。本稿においても実例を用いて作例を避けた理由は、「言ってしまうと言え」と思う一方で、誰もが納得する作例を多くは提示できないと考えたからである。そして、このことは当該表現の特徴でもある。誰もが納得できる例をいくつも作ることができないということは、第一に新用法なのではないか、第二に話し言葉で使われるのではないか、第三に俗語なのではないかという三つの疑問がわく。小野（同）でも「ほとんどはブログなどに見られる表現」「現在のところもっぱら口語において用いられるようである」と指摘する。

第一の疑問については、既に見た通り『日本国語大辞典』には明治期の実例が二例ある（先の夏目漱石の例、病牀六尺〔1902〕〈正岡子規〉「快生などはこの前見た時には子供子供した<sup>15</sup>いっその小僧さんのやうに思ふて居たが」）。また、徐（2016）によれば「多くの用例は近代小説の作品に集中している」とある。これらから新用法ではないことがわかる。つまり、古くからある語構成の手段である。

第二の疑問について、今回 BTSJ（自然会話コーパス）を用いて友人同士雑談の全て（16時間5分54秒）と初対面同士雑談の一部（11時間52分50秒）を調査した<sup>15</sup>。その結果は0件だった。28時間程度では量的に少なかつたためか、検出されなかった。今回の調査から、少なくとも頻出するものではないということはいえそうである<sup>16</sup>。

第三の疑問については、「俗語」とは「①詩歌、文章などに用いる文字ことば（雅語）に対して、日常の話しことば。②標準的な口語に対して、あらたまった場面では用いられないようなくだけたことば（日本国語大辞典）」「くだけたことば、卑俗なことば（日本大百科全書）」とされる。今回実例を集めるためにさまざまな媒体を用いたが、実例を確認できたのは辞典、新聞のインタビュー記事、ネットのブログやSNSであったため、「日常のことばでくだけたことば」であるということはいえるだろう。しかし、そこに下品で乱暴な卑俗さは特段見出すことはできなかった。

## 9. 生産性・造語力

特に「ぼい」は「臨時的、個別的に自在な造語を可能にする（山下1995）」と

あるように、様々な種類のものに次々と後接することで意味・用法を広げてきた接辞である。その臨時的、個別的な結びつきは「言えば言える」というレベルをも指す。当該表現もまた同様の特徴を持ち、「この大福は小豆小豆してるね（作例）」「ゴッホゴッホした油絵（作例）」など臨時的、個別的に自在な造語の可能性を持ち、生産性の高い形式であると言える。小野（2015）も「豊語している」が一般的な豊語と異なるのは生産性が極めて高い点にあると述べている。

言葉の海から当該表現を実例として見つけ出すことは難しくとも、いくらかでも作りうるという生産性を持つことは間違いない。また、造語力という点では、他に形容詞性接尾辞として「しい」がある。これは「豊語+しい」をなし、古くから「子子し」「大人大人し」などが存在し、現在も「粉粉しい」「青々しい」などがネット上で使われている。日本語には、このような形容詞に変える手段がいくつかある。そして、これらは形容詞であるために程度副詞を用いれば強い程度性も示せるため、この点において「豊語している」と意味が重なることになる。そのため、当該表現を使うとすれば、他の表現にはない新しさ（例えば『ぼい』が多用されることで生じる慣れを拭うため）や極端な強調を示すために用いるということになるのではないか。当該表現はネットではブログや記事の見出しに多い傾向があったが、それも他の表現が持たない極端な強調を示すためであろう。そして、一見すると新しく感じられるのは、認知度が低いということと、強調の側面が若者語と結びつきやすい（若者語には強調の役割を果たす語が多い、例えば神対応、爆買、激アツ、やばい等）ということが関係していると思われる。

認知度の低さは辞典にも現れている。『デジタル大辞泉』の「一する」という見出し語（955語）を今回すべて調べたが、収録されている当該表現は一例（子供子供する）のみであった。その一方で「デイスる」、「ぼいする」などの若者語や俗語が収録されており、いかにその存在の認知度が低いかがわかる。青海（2020）も「生産的であり、名詞の豊語の用法として一般に知られるべきだと思われる」と述べている。

## 10. 文法的な機能—形容詞相当—

### 10.1. 程度性と状態性

最後に、当該表現の文法的な機能について考察する。徐（2016）に「多くの用法は『～～した（している）+名詞』の形で表<sup>マ</sup>られていて（略）全用法の約62%を占めている」とある。また小野（2015）には「この形式以外では用いられな

いという強い制限もある」とする。形式的には、動詞「する」の連用形「し」＋接続助詞「て」＋補助動詞「いる」、または連用形「し」＋助動詞「た」の連結であるが、「している」と「した」は動詞としての機能を果たしているだろうか。動詞は基本的に時間軸に沿って展開される動作であるために、テンスの分化を示すものだが、当該表現にはそれが無い。

(18) a. \*その大学生は、子供子供した。(過去)

b. \*その大学生は、明日は子供子供する。(未来)

つまり、動作を表わしてはいない。そして、アスペクトの分化は形式的にはあるものの、その意味するところは、動作の継続でもなく動作の結果残存でもなく、状態を示す。

(18) c. その大学生は、子供子供している。(状態)

このような状態性や属性を示す専用の品詞は、形容詞や形容動詞である。また、西尾（1972）は「程度副詞は、主として形容詞を修飾することを職能とする」「程度性ということは、『比較』ということと深い関係がある」と述べる通り、形容詞は程度副詞による修飾が可能であり、比較表現を作ることができる。同じ性質を当該表現が持つか確かめてみると、以下のように可能である。

(18) d. その大学生は、とても子供子供している。

(18) e. Bさんの方がその学生よりももっと子供子供している。

加えて、形容詞性接尾辞「ばい」「らしい」と置き換え可能であるということは、「～ばい」「～らしい」という形容詞一語に相当するということである。したがって、形態的には動詞であるが、意味的、機能的には形容詞相当とも言える。

## 10.2. 「～している」という形容詞機能語尾

また、「疊語している」だけでなく、「している」が後接した形容詞的な表現が他にも多く見られる。例えば、「青い目をしている／した留学生」<sup>17)</sup>「花子は長い髪をしている」「丸い形をしている／した箱」「太郎はハロウィンの格好をしていた」など「名詞をしている／した」、もう一つは「ふわふわした綿飴」「ゴツゴツした岩」など「擬態語している／した」である。徐（2016）では「『擬態語』の使われ方と多くの共通点がある」として「擬擬態語」と呼んでいるが、擬態語だけでないことがわかる。他にも「線がくっきりとしていた」「ゆっくりとした動き」など「様態副詞している」がある。したがって、「～している／した」は生産性の高い形容詞機能形式と言える。このことを許すのは、形式動詞「する」の持つ文法的機能性に特化した性質によるものである。

また、形容詞に似た性質を持つ語に、連体詞や第三形容詞（村木 2000、2002）がある。第三形容詞は「一い」「一な」の形式以外で形容詞の特徴を持つものである。これらと当該の表現を比較し、その形容詞性の程度を見てみる。比較の観点は、連体修飾が可能か（規定用法）、述語で用いられるか（述語用法）、連用修飾が可能か（連用修飾）、語としての完成度を見るために活用の展開の有無（活用）、一定の形態をなすか（体系性）、程度副詞による修飾が可能か（程度性）である。結果は以下の表である。

表4 形容詞性の比較

	例語	規定用法	述語用法	連用修飾	活用	体系性	程度性
形容詞	楽しい 親切的な	○	○	○	○	一い 一な	○
第三形容詞	真紅の	○	○	○	○	一の	○
連体詞	とんだ	○	×	×	×	×	×
疊語している／した	子供子供している／した	○	○	×	×	一している／した	○

この通り、第三形容詞ほどではないが、連体詞よりもはるかに形容詞的であることがわかる。そして、「している／した」が形容詞相当に変える力を持つため、「している／した」は形容詞機能語尾と呼ぶべきであろう。

## 1.1. おわりに

以上、同じ名詞が二度繰り返されて「している（した）」と結合する形式について、類義の「ばい」と「らしい」と比較を試みた。共通点は「前接部の量、特徴や性質が強く現れていること」ことで、相違点は当該表現が「その数量、性質が極めて多い、大きいことを示す場合のみに使われる」という点である。また、レアリティの相違も見られ、「ばい」が反事実、「らしい」が事実、というのがそれぞれの本来の用法であるのに対し、当該表現はその両方のレアリティを示しうる点も明らかになった。そして、その文法的機能は「する」という形式動詞に支えられて当該表現が形容詞の機能を示すこと、「している／した」が形容詞化語尾として機能している可能性を述べた。臨時的に多様な表現を作り得る生産性の高い表現とも言えよう。まとめれば、「疊語している（した）」は「前接要素に含まれる『属性的な性質』を引っ張りだして形容詞化する動詞形式の語尾（形容詞機能語尾）」と言える。

本稿では、新たに話し言葉コーパス（BTSJ）を用いて調査を行なったが、まだ十全とは言えない。また、明治期に既に見られるこの表現がどのように時代的



に変遷してきたのかなどは今後の課題である。

#### 注

- 1) 筆者はこれまで「する」の意味・用法とその機能について全体像を掴むべく研究を行ってきた。
- 2) 本稿では重複語と疊語は同じと考え、疊語を代表させる。
- 3) 本稿では「インターネット」を短縮形の「ネット」と表示する。
- 4) 本稿では「している／した」を「している」で代表させることとする。
- 5) 徐（2016）は青空文庫を検索した結果「丈夫」「元氣」も1例ずつ見られたとする。
- 6) 「黒」を形容詞語幹と見ることもできる（山下 1995）が、色を示す語には形容詞ではなく名詞であるものが多く（例、緑、紫、水色、灰色、オレンジ色、ベージュ等）、形容詞のもの（赤い、白い等）は名詞としても使われる（赤、白）ことから名詞の分類に入れる。
- 7) 実例にあった記号や顔文字等は読みにくいため省き、適宜句読点を加えた。
- 8) #は文法的には置き換え可能だが、意味が異なることを示す記号として用いる。
- 9) ただし、モノ名詞の場合に量的最大値が必ずしも保証されるわけではない。「いちごいちごしてる」は寧ろ苺味が濃厚であることを意味するため、実際に苺が大量に入っているかどうか確認できるということは必須ではない。量が多いことと性質が強いことは連動していると見るべきである。
- 10) 副詞「黒々と」「青々と」の「と」が省略されたとも考えられるが、「青々する」「黒々する」も多数検出される。また「黒を選ぶ」「青が眩しい」のように名詞の用法も持つ。「黒々」「青々」が名詞の疊語で「と」が後続することで副詞になったという可能性も否定できなくはない。ここでは「ピンク」「茶色」などと同じく色を示す名詞として扱う。
- 11) 地名や場所の名詞、職業や立場の名詞を用いた実例を見つけるため、様々な名詞を入れて検索してみたが見つけることができなかった。そのため項目を作って述べることはしないが、先行研究では「田舎田舎している（徐 2016）」「大阪大阪した街並み（小野 2015）」の実例が検出されており、また筆者の語感としても共起可能だと判断できる（作例「あの人は先生先生してるね」「官僚官僚してなくてありがたい」）ため、使われることは間違いないだろう。
- 12) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』では『『子供らしい』は、子供に対して使えますが、『子供っぽい』は子供に対して使いません。p398』とある。小島（1996）にも「実際にそうであるものについての接尾語『らしい』」とあり、鈴木（1988）では明治期から大正期に反事実の用法が見られたとされるが、岩崎（2013）でも昭和期以降事実を示す用法に限定されていくと説明されている。いずれも「らしい」が現在は「事実」を示すものであることを指摘している。
- 13) 辞書の記載は「子供の特徴を示していることを表わす」のような修正が必要であろう。大人に用いる例はBCCWJでは2対1で寧ろ多く、事実・反事実ともに、時代的にも文体的にも一般的に用いられるためである。

- 14) 畳語の意味が「多数性」であっても、「\*それぞれした解決法」「\*あの人あの人した生き方」などは見られない。指示語が意味するものが曖昧であること、その曖昧さから性質を引き出すことができないことが理由であろう。
- 15) BTSJ で調査したのは、001～019、031～042、112～116、207～209、329、331、333、374～377（友人同士雑談）と173～206、330、332、348、349、354、355（初対面雑談）である。「して（い）る」「して（い）た」「して（い）て」「した」を検索語として調査したため全文調査である。
- 16) 『名大会話コーパス』は約100時間の雑談コーパスであるが、当該表現のような形式を検索する方法が見つからず、また時間も無いため今回はできなかった。
- 17) 小野（2015）では「青い目をした女の子」は恒常的な属性を表し、「女の子の子している」は「恒常的な属性というよりは、一過性の属性を表すことができる」という違いを提示しているが、「その日京子はカラーコンタクトで青い目をしていた（一過性）」「お嬢様育ちというのは常に女の子の子している（恒常的）」という例を考えられるため、両者は恒常的な属性も一過性の属性もどちらも表しうると考えるべきだろう。

#### 参考文献一覧

- 青海節子（2020）「日本語の畳語一名詞の畳語が表現する意味の可能性―」『駿河台大学論叢』60号、駿河台大学
- 岩崎真梨子（2013）「形容詞性接尾辞のレアリティに関する考察―『一ぱい』『一らしい』『一みたい』―」『八戸工業大学紀要』第32号、八戸工業大学
- 大塚望（2019）「現代日本語における多機能動詞研究―『する』と『ある』―」筑波大学博士（言語学）論文
- 尾谷昌則（2000）「接尾辞『ぱい』に潜むカテゴリー化のメカニズム―『女っぱい』は女ですか？―」『日本言語学会第120回予稿集』日本言語学会
- 小野尚之（2015）「構文的重複語形成―『女の子の子した女』をめぐる―」由本陽子・小野尚之編『語彙意味論の新たな可能性を探って』開拓社
- 小原真子（2010）「接尾辞『一ぱい』について」『島大言語文化』29、島根大学法文学部紀要言語文化学科編、島根大学法文学部
- ケキゼ・タチアナ（2003）「『ぱい』の意味分析」『日本語教育』118、日本語教育学会
- 小島聡子（1996）「『らしい』について」『山口明穂教授還暦記念 国語学論集』明治書院
- 定延利之（2015）「遂行的特質に基づく日本語オノマトペの利活用」『人工知能学会論文誌』30：1、人工知能学会
- 徐一平（2016）「日本語の名詞が畳語の形で擬態的な意味を表す問題について―コーパスの役割も同時に考える―」『日本語・日本学研究』第6号、東京外国語大学国際日本研究センター
- 鈴木英明（1988）「明治期以降のラシイの変貌」『国語国文』57-3、京都大学文学部国語国文学研究室
- 竹島奈歩（2010）「接尾辞『ぱい』と共に起る名詞について―新聞記事の見出しを例に―」

- 『同志社大学日本語・日本文化研究』8、同志社大学日本語・日本文化教育センター  
田野村忠温（1991）『「らしい」と『ようだ』の意味の相違について』『言語学研究』10、  
京都大学言語学研究会  
西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版  
橋本進吉（1935）『新文典 上級用』富山房  
濱田佳苗（2010）「接尾辞『ばい』について」『愛知大學國文學』49、愛知大學國文學会  
松下大次郎（1928）『改撰標準日本文法』紀元社  
村木新次郎（1980）「日本語の機能動詞表現をめぐって」国立国語研究所報告65『研究  
報告集』2、国立国語研究所  
—————（2000）『「がらあきー」「ひとかどー」は名詞か、形容詞か』『国語学研究』  
39、東北大学文学研究科  
—————（2002）「第三形容詞とその形態論」『国語学論究10 現代日本語の文法研究』  
明治書院  
森田良行（1977）『基礎日本語1』角川書店  
—————（1989）『基礎日本語辞典』角川書店  
山下喜代（1995）「形容詞性接尾辞『ーばい・ーらしい・ーくさい』について」『講座日  
本語教育』30、早稲田大学日本語研究教育センター  
山田孝雄（1908）『日本文法論』宝文館（昭和4年5版を参照）

#### 辞典

- 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』松岡弘（監修）、庵功雄、高梨信乃、  
中西久美子、山田敏広（著）、スリーエーネットワーク  
『デジタル大辞泉』（『大辞泉 第二版』）小学館、2012年  
『日本語学研究事典』明治書院、2007年  
『日本語学大辞典』東京堂出版、2018年  
『日本国語大辞典 第二版』小学館、2000年12月20日～2002年1月20日  
『日本大百科全書』小学館

#### コーパス、データベース

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）、国立国語研究所  
宇佐美まゆみ監修（2020）『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）  
2020年版』、国立国語研究所、機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者の  
コミュニケーションの多角的解明」、サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使  
用の解明」（リーダー：宇佐美まゆみ）  
毎索（毎日新聞データベース）  
ヨミダス歴史館（読売新聞データベース）

大塚望（おおつか・のぞみ、創価大学文学部教授）